本願寺新報
hongwanji journal
7月20日(月曜日)
毎月1日・10日・20日発行
発行所　本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル　浄土真宗本願寺派（西本願寺）本願寺出版社内
〒600-8501
電話 075(371)4171(代) ／ FAX075(341)7753

トップニュース

豪雨で九州の寺院に被害

熊本で門信徒12人亡くなる

本山から熊本の被災寺院を見舞う

村落孤立で避難生活の住職も

梅雨前線に伴う記録的な豪雨（令和2年7月豪雨）で、九州各地の寺院や門信徒が大きな被害を受けた。本山では7月8、9日、竹田空尊総務が熊本教区（宮川善裕教務所長）を訪ね、熊本県人吉市や芦北町などの被害を受けた寺院を見舞った。

近くを流れる球磨川の氾濫で本堂が床下浸水、納骨堂と事務所、役宅が床上浸水の被害を受けた人吉市の人吉別院では、河村信昭輪番が竹田総務に被災時の様子を語った。

「7月4日の午前7時40分頃、泥水が流入し境内は1メートル近くまで冠水した。職員総出で門徒台帳や重要書類などを2階に運んだが、ほかの書類やコピー機などは間に合わなかった」

門信徒の被害が大きく、河村輪番は「少なくとも400軒近くのお宅が被害に遭われた。そのうちの234軒は1階部分が完全に水に浸かっている。特別養護老人ホームに入居していた方を含め5人のご門徒が犠牲になられた」と、表情を曇らせながら被害状況を説明した。

◇

芦北町では4カ寺を見舞った。いずれも町の中心を流れる佐敷川沿いにある。川幅50㍍ほどで、普段なら歩いても渡れるほどの水位だが、3日夜から4日にかけて降り続いた大雨で増水して氾濫、境内に泥水が押し寄せた。

勝延寺は本堂と庫裏が床上まで浸水した。吉津慶勝住職は「最初は、庫裏から高い位置にある本堂に避難したが、本堂も浸水しだしたので慌てて庫裏に戻り、2階に避難した。途中で両親とはぐれたが、二人とも胸まで水に浸かりながら庫裏の2階に避難してきた。本当にもうダメかもしれないと鳥肌がたった」と恐怖を振り返った。

すでに、本堂の畳はすべて取り除かれていた。境内に流れ込んだ泥水は約2㍍にも達したという。「まずは本堂をなんとかしたい。みんながお参りされる場所なので」と語った。

蓮光寺は本堂が床下浸水、庫裏が床上浸水した。佐々木信也住職は家族とともに、泥水が流れ込んだ庫裏の1階の後片付けに追われていた。

佐々木住職は「こんなことは初めて。庫裏の泥はまだ全然かき出せていない。本堂の床下に入り込んだ泥も早く処理しないといけない」と額の汗を拭った。

明専寺の境内には約2㍍の高さまで泥水が流れ込んだ。分部眞明住職は「庫裏に入り込んできた水は、1、2分の間でどんどん増量していった。家族6人で2階に避難した」。そして、本堂に水が浸水していく様子を目の当たりにし、ぼうぜんと立ちすくんだという。

「外陣より80㌢ほど高くなっているので内陣の浸水は免れた。ご門徒のためにも、早く本堂を使えるようにしたいが、畳屋さんの手配が今は困難なので」と話す。

専妙寺は本堂が床下浸水し、9年前に建てた庫裏の1階が床上浸水した。澁谷百錬住職は「午前1時頃に避難警報が流れたので、門徒名簿など運べるものはすべて2階に持って上がり、家族6人全員で2階に避難した。避難所に行くのが危険だったので、近所の数家族もここに避難してこられた」と話した。

境内の泥を見ながら「早くかき出してしまわないと固まってしまって大変。お手伝いにきていただけると有り難い」と宮川教務所長にボランティアの派遣を依頼していた。

◇

八代市郊外の山間にある延命寺は、4日午前7時頃に本堂の裏山が高さ50㍍以上、幅20㍍以上にわたり崩落し、直径50㌢ほどの大木がずり落ちて、本堂の裏壁に接触して止まっている。また、直径20㌢ほどの木が庫裏1階の屋根を直撃、瓦数枚が破損した。

崩落が起きた時、久保田久志住職とるり子坊守は近所の一人暮らしの高齢の門徒を心配し、家々を回っていたという。「バリバリ、バリバリ」という異様な音がし、どこかで山崩れが起きたのかと思いながら自坊に戻ると、裏山が崩れていた。

久保田住職は「この先、雨がまた強く降ると、さらに危険な状態になるのでとても心配。しかし、私たち素人ではどうしようもない。早く業者に撤去してもらわないと」と語った。

同寺では8日、教務所職員や教区内の僧侶など約10人のボランティアが、境内の土砂をスコップなどで取り除いていた。その一人、芦北組の林誓史組長は「コロナウイルス感染症で、熊本県外からのボランティアは難しいと思う。近くの私たちでできることをさせていただきたい」と話していた。

◇

また、球磨村にある乗光寺・豊橋光秀住職は、同寺のある村落が孤立したため、住民200人とともに錦町の避難所に避難している。竹田総務らは避難所を訪れ、豊橋住職を見舞った。

錦町の明覚寺は本堂、庫裏の被害はなかったが、納骨堂横の斜面の土砂が崩れ落ちた。

高台にある球磨村の壽泉寺も本堂、庫裏などに被害はなかったが、地域一帯の民家が2階まで冠水するなどの被害が出ており、住民らの避難所となっている。

……

物資など支援についての問い合わせは熊本教務所☎096(343)8283。

写真上＝7月4日、泥水が流入して冠水した熊本県人吉市の人吉別院
写真下＝浸水して大きな被害を受けた人吉市の街中（7月8日）

床上浸水の被害を受けた芦北町の勝延寺の本堂

「コロナで他県からのボランティアは難しい。私たちでできることを」と土砂を運び出す地元の僧侶たち＝八代市・延命寺

熊本・大分などから被害報告

寺院被害20カ寺 門信徒被害は21カ寺

本山・社会部〈災害対策担当〉には、6教区の20カ寺から寺院の被害、21カ寺から門信徒の被害報告が届いている（別院・教堂含む）。被害の概要は次の通り（7月13日現在）。

◇

■熊本教区＝熊本県人吉市・人吉別院、芦北町・明専寺、球磨村・乗光寺、山鹿市・正泉寺（菅研成住職）の門信徒12人が犠牲となった。そのほか、門信徒宅の全壊、半壊、床上浸水、床下浸水など多数。

寺院被害は、熊本県芦北町の勝延寺と明専寺で本堂と庫裏が床上浸水。八代市・崇光寺（蕚弘伸住職）、芦北町・蓮光寺、同町・専妙寺で本堂床下浸水、庫裏床上浸水。八代市・延命寺で本堂と庫裏が床下浸水。また、田浦町・覺應寺（葦原顕信住職）の納骨堂が床上浸水、錦町・明覚寺（澁谷匡住職）の納骨堂横で土砂崩れ、上天草町・観乗寺（藤田英道住職）の会館（客殿）が床下浸水。

人吉別院は本堂が床下浸水、納骨堂、事務所、役宅が床上浸水。

■大分教区＝大分県由布市・教法寺（葦胤徹應住職）の門信徒4人が行方不明。そのほか、門信徒宅の床上・床下浸水など多数、裏山崩落、土砂流入、水田水没などが報告されている。

寺院被害は、大分県由布市・西蓮寺（杜多晃證住職）の参道が一部崩落、参道入口に土砂流入。玖珠町・専光寺（志津里行暢住職）は裏山より墓地に土砂流入。九重町・尊光寺（胤末宣明住職）の本堂裏山が崩落。同町・光周寺（辛嶋憲章住職）の境内地そばの裏山が崩落。同町・淨明寺（藤枝秀文住職）の本堂裏山が崩落、側溝に土砂が流入。大分市・聞蔵寺（甲斐法明住職）の本堂屋根瓦一部落下、雨漏りにより天井一部破損。

■福岡教区＝門信徒宅の破損、床上浸水、床下浸水、小屋浸水など。寺院の被害は、福岡県大牟田市・明行寺（福山智昭住職）の境内駐車場・私道が崩落、側溝詰まり。

■長崎教区＝大村市・真楽寺（木山真英住職）で庫裏が雨漏り。

■鹿児島教区＝門信徒宅の全壊1件、床上浸水1件、農地浸水5件。

■佐賀教区＝佐賀市・佐賀教堂が庫裏（事務所建物）屋根瓦数枚落下。